

中谷 晃（司会）

Q1・クロッキーの際に、重視している要素や目指していることは何ですか？

目視で観察できた空間を定着できるように考えています。

Q2・好みの画面サイズや時間、その理由があれば教えてください。

木炭紙サイズが適度な大きさです。

腕を伸ばして描きながら画面全体が把握できるのが良いと思います。

Q3・黒色の素描材料では何をよく使いますか？また、どのようなメリットがあると考えていますか？

クロッキーに関してはコンテを愛用しています。

グラデーションを多用しますが、コンテの発色の良さは素晴らしいです。

Q4・クロッキーにおいて「黒」をどのように使いたいですか？物の存在を示すものとして黒を使いたいです。

Q5・描き出す際、輪郭、稜線、軸などのうち、どの要素に重点を置いて始めることが多いですか？（特に人物の場合）

特に軸は大切にしている。

絵画は静止画ですが、動感を伝えるには軸が大切だと考えています。

Q6・クロッキーの制作途中で特に注意している点がありますか？

モデルをよく見ること。

形の変化に気づくことを大切にします。

Q7・クロッキーの仕上がりを確信するのはどのような時ですか？

動感と空間感の構築を感じる時です。

Q8・クロッキーとタブロー（彫刻の場合、立体作品）で同じ対象を捉える場合、感覚の違いなどはありますか？

基本的には同じと言えます。タブローはクロッキーより複雑な要素が絡みあうので注意が必要です。

Q9・作品制作時にクロッキーをどのように役立てていますか？

動感と空間感の設計として役立てています。

Q10・あなたにとって、クロッキーはどのような意味を持っていますか？

空間を認識し分析する作業だと思います。